倶多楽の火山活動解説資料（平成29年５月）

札　幌　管　区　気　象　台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図１、図２-①）

日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上概ね50ｍ以下で、噴気活動は低調に経過しました。なお、今期間は大正地獄の熱湯噴出は観測されませんでした。

・地震及び微動の発生状況（図２-②）

22日に振幅の小さい地震がやや増加しました（15回/日）。地震増加時にその他の観測データに特段の変化はなく、その他の日は、火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図２-③、図３）

GNSS[1)] 連続観測及び４月に実施した繰り返し観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

1）GNSS（Global Navigation Satellite Systems）とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

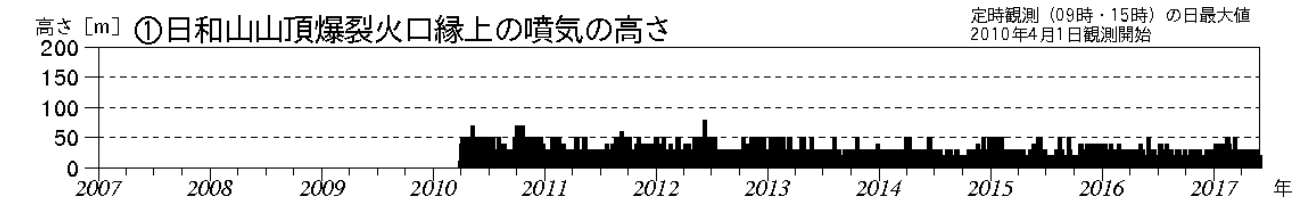
この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(http://www.jma-net.go.jp/sapporo/)や気象庁のホームページ(http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html)でも閲覧することができます。

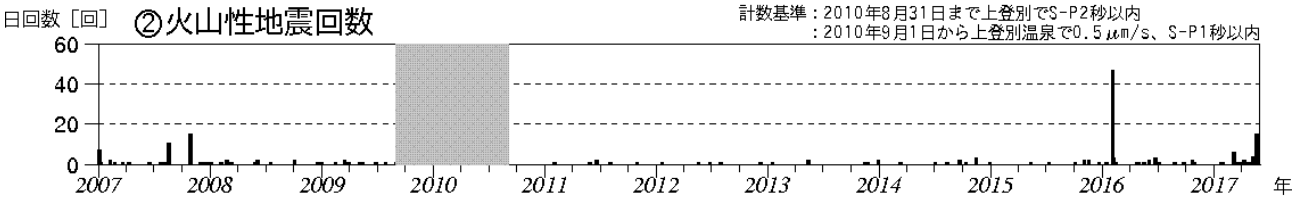
この資料は気象庁のほか、国土地理院及び北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50ｍメッシュ（標高)』を使用しています（承認番号　平26情使、第578号)。また、同院発行の『電子地形図（タイル)』を複製しています（承認番号　平26情複、第658号)。

次回の火山活動解説資料（平成29年６月分）は平成29年７月10日に発表する予定です。

図１　倶多楽　南南西側から見た日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況
（５月17日、414m山監視カメラによる）





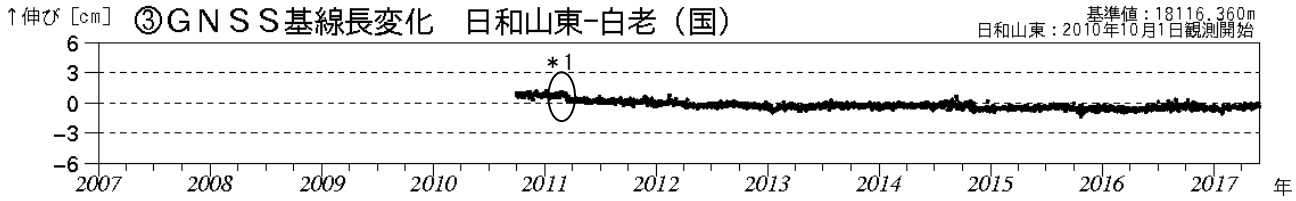
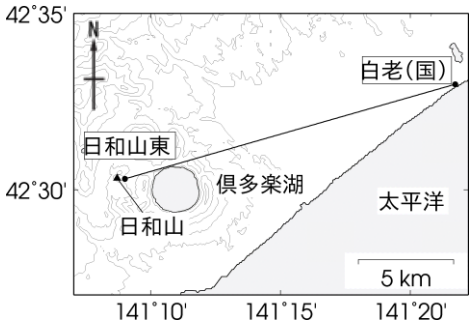
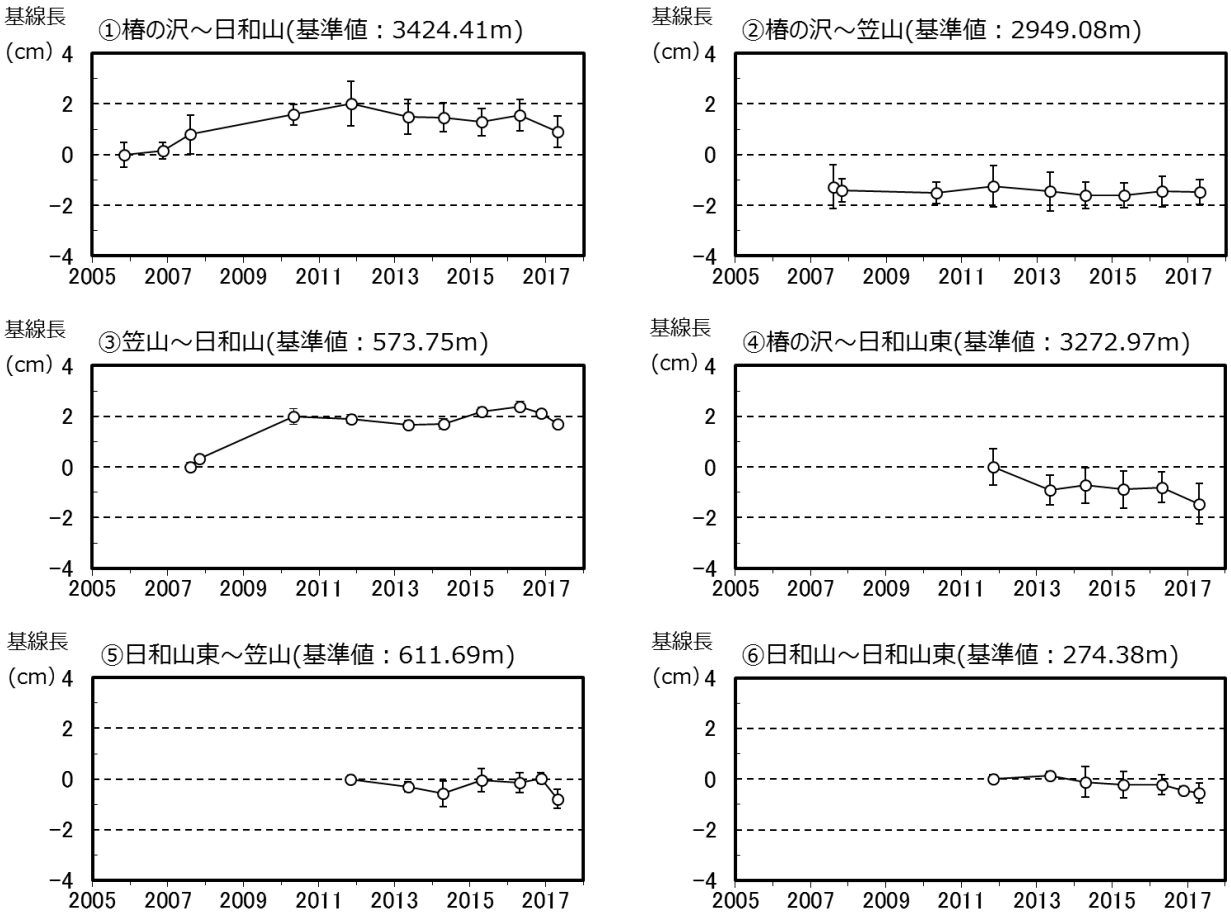


図２　倶多楽　火山活動経過図（2007年１月～2017年５月）
・②の灰色の期間は機器障害による欠測を示します
・③のGNSS基線は右配置図の基線に対応しています
・（国）：国土地理院
＊１：楕円内の変動は、2011年３月11日に発生した「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の影響によるものであり、火山活動によるものではありません



GNSS連続観測点配置図



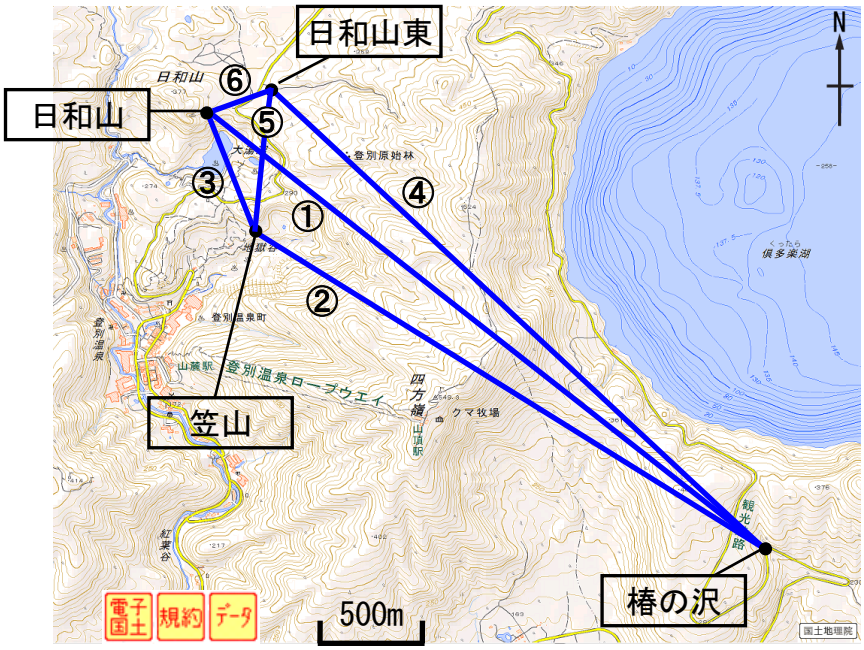


図３　倶多楽 GNSS 繰り返し観測による基線長変化（2005 年 11 月～2017 年４月）

・GNSS 基線①～⑥は下図の①～⑥に対応しています

・火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした

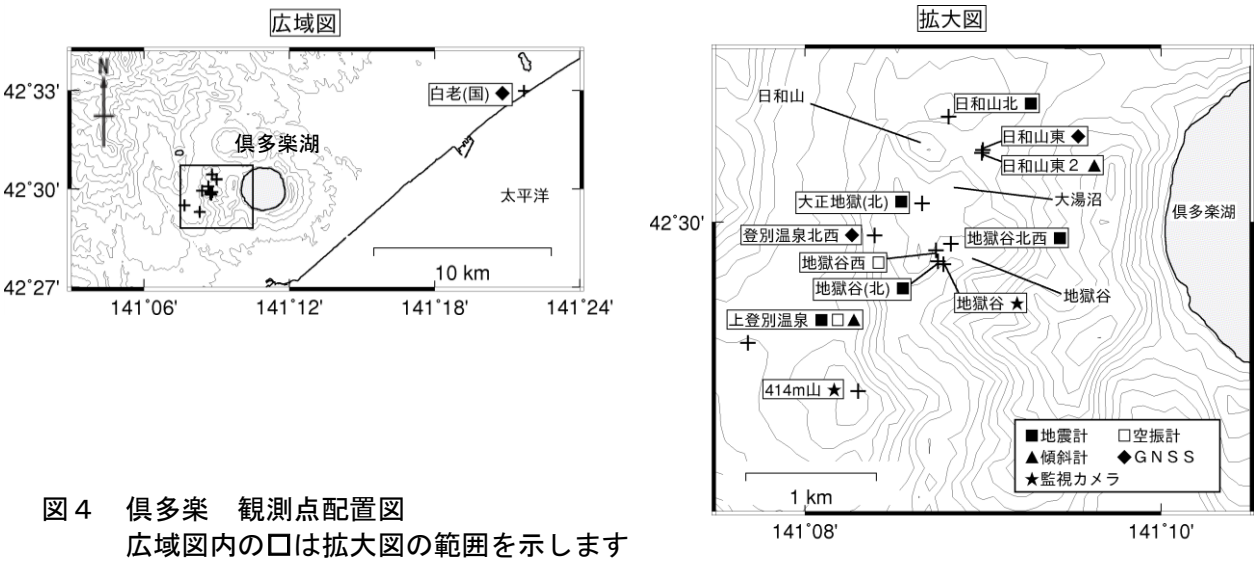


図４　倶多楽　観測点配置図
広域図内の□は拡大図の範囲を示します
＋印は観測点の位置を示します
気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています
（国）：国土地理院
（北）：北海道大学